大和総研
Daiwa Institute of Research

2013 年 3 月 29 日　全 5 頁

Indicators Update

2 月鉱工業生産

生産指数は予想外の低下も、基調は持ち直し

経済調査部
エコノミスト　橋本政彦

[要約]

■ 2013 年 2 月の生産指数は、前月比▲0.1%となり、上昇を見込んでいた市場コンセンサス（同＋2.5%）に反して 3 ヶ月ぶりの低下となった。今回の結果に関しては想定外の弱い内容であったものの、3 ヶ月移動平均で見ると 3 ヶ月連続で増加となっており、先行きに関しても緩やかながら増産を見込んでいることから、生産の持ち直し基調は続いている。

■ 2 月の生産を業種別に見ると、先月時点で大幅な生産増を見込んでいた電子部品・デバイス工業の生産が、前月比▲5.0%と計画に反して低下したことが生産全体を押し下げた。一方、全 16 業種中、10 業種が前月から上昇しており、広い業種で生産は増加している。素材業種では概ね先月時点の計画に沿った内容となったが、輸送機械工業、情報通信機械工業、電気機械工業といった加工組立業種の上昇幅が計画に比べて小幅に留まったため、生産全体としては想定よりも弱い結果となった。

■ 製造工業生産予測調査によると、2013 年 3 月の生産計画は前月比＋1.0%、4 月は同＋0.6%となっており、生産は増加基調が続くと見込んでいる。業種別に見ると、鉄鋼業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業に関しては 3 月、4 月ともに増産を見込んでいる。一方、非鉄金属工業、情報通信機械工業は 3 月、4 月とも減産を見込み、特に情報通信機械では 4 月に前月比▲19.1%と大幅な減産を見込んでいる。その他の業種の計画に関しては、一進一退となっており、生産計画に関してはここ数ヶ月間見られたような強気一辺倒ではなくなってきている。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2013年 1月	2月
鉱工業生産	▲1.0	▲1.6	▲4.1	1.6	▲1.4	2.4	0.3	▲0.1
コンセンサス								2.5
DIR予想								2.0
生産者出荷	▲3.1	0.2	▲4.3	▲0.1	▲0.8	4.0	▲0.3	0.8
生産者在庫	2.9	▲1.6	▲0.9	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲0.4	▲2.0
生産者在庫率	3.7	▲2.3	4.2	▲2.1	▲0.3	▲0.6	▲3.2	▲1.0

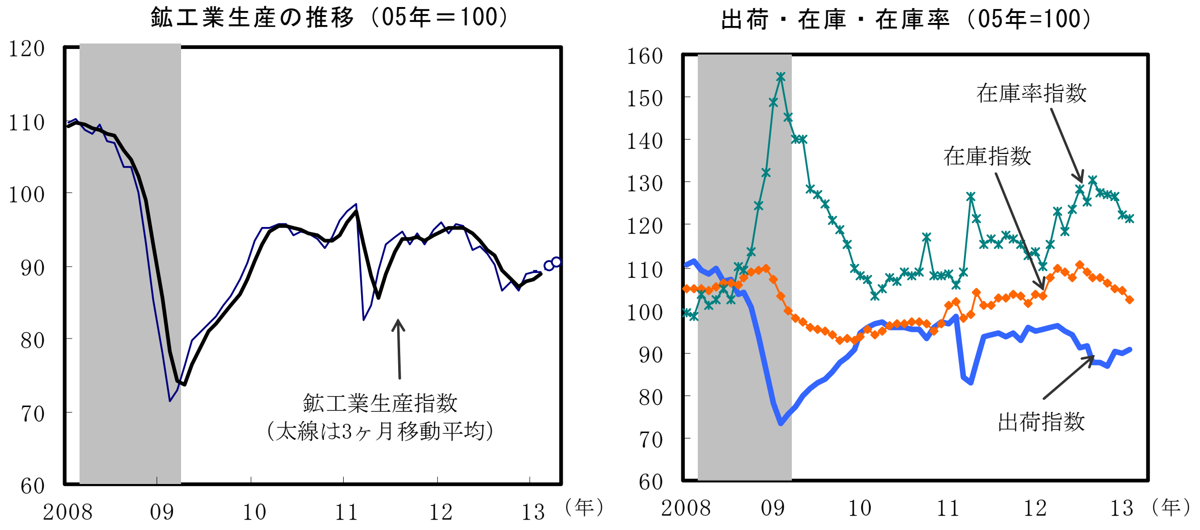
（注）コンセンサスはBloomberg。
（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

このレポートは投資勧誘を意図して提供するものではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。㈱大和総研の親会社である㈱大和総研ホールディングスと大和証券㈱は、㈱大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。内容に関する一切の権利は㈱大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

生産指数は予想に反して 3 ヶ月ぶりの低下

2013 年 2 月の生産指数は、前月比▲0.1%となり、上昇を見込んでいた市場コンセンサス（同＋2.5%）に反して 3 ヶ月ぶりの低下となった。今回の結果に関しては想定外の弱い内容であったものの、3 ヶ月移動平均で見ると 3 ヶ月連続で増加となっており、先行きに関しても緩やかながら増産を見込んでいることから、生産の持ち直し基調は続いている。出荷指数は前月比＋0.8%と 2 ヶ月ぶりに上昇し、在庫指数が同▲2.0%と低下したことから、在庫率指数は同▲1.0%と 5 ヶ月連続の低下（改善）となった。

生産・出荷・在庫の推移（季節調整値）



（注1）生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。
（注2）シャドーは景気後退期。
（出所）経済産業省統計より大和総研作成

2 月は加工組立業種が軒並み下振れ

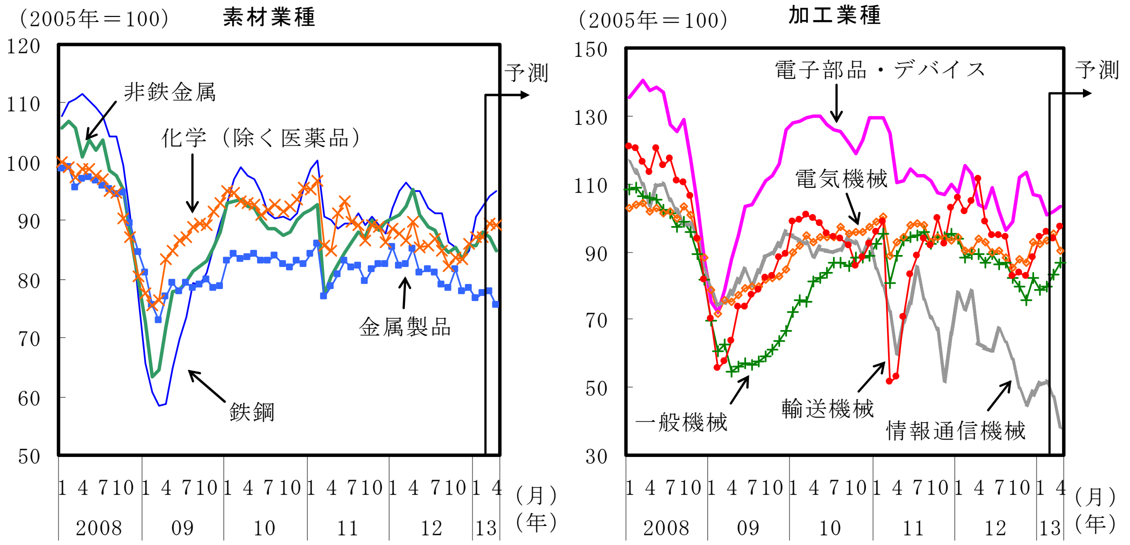
2 月の生産を業種別に見ると、先月時点で大幅な生産増を見込んでいた電子部品・デバイス工業の生産が、前月比▲5.0%と計画に反して低下したことが生産全体を押し下げた。スマートフォン向けの落ち込みによって、モス型半導体集積回路（メモリ）、アクティブ型液晶素子（中・小型）の生産が減少したことが下押し要因となった。

一方、全 16 業種中、10 業種が前月から上昇しており、広い業種で生産は増加している。素材業種では概ね先月時点の計画に沿った内容となったが、輸送機械工業（前月比＋1.8%）、情報通信機械工業（同＋2.0%）、電気機械工業（同＋0.6%）といった加工組立業種の上昇幅が計画に比べて小幅に留まったため、生産全体としては想定よりも弱い結果となった。

製造工業生産予測調査によると、2013 年 3 月の生産計画は前月比＋1.0%、4 月は同＋0.6%となっており、生産は増加基調が続くと見込んでいる。業種別に見ると、鉄鋼業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業に関しては 3 月、4 月ともに増産を見込んでいる。一方、非鉄金属工業、情報通信機械工業は 3 月、4 月とも減産を見込み、特に情報通信機械では 4 月に前月比▲19.1%と大幅な減産を見込んでいる。その他の業種の計画に関しては、一進一退となっており、

生産計画に関してはここ数ヶ月間見られたような強気一辺倒ではなくなってきている。なお、3月の生産が予測調査通りの結果となった場合、四半期ベースでは 2013 年 1-3 月期は前期比＋1.7％と、4 四半期ぶりの前期比増加となる見込みである。

主要業種の生産推移

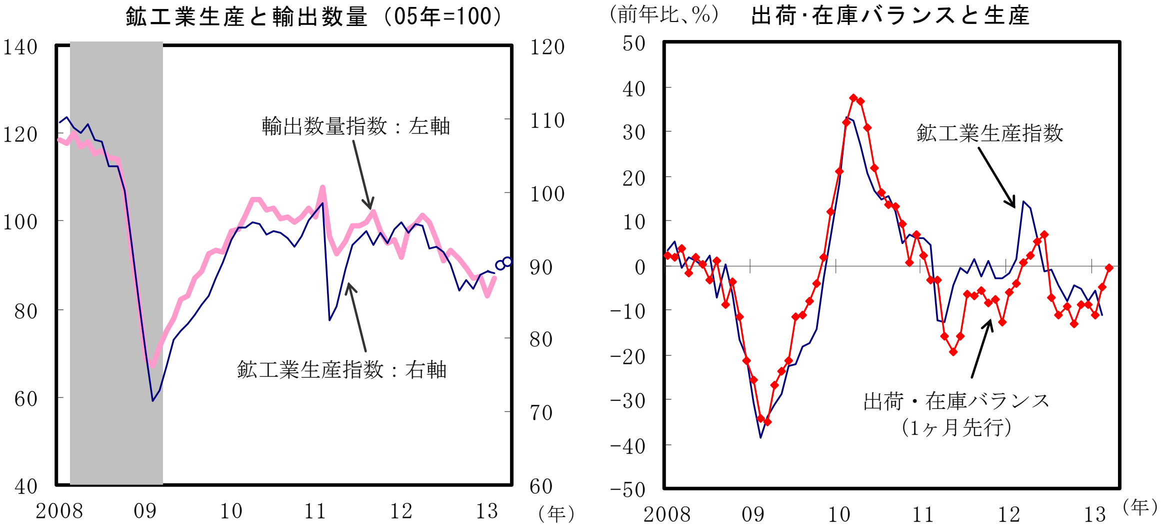


（注）直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
（出所）経済産業省統計より大和総研作成

生産が増加傾向となるには輸出の改善がカギ

生産と連動性の高い輸出数量の弱い動きが続くなかで、生産は持ち直しつつあるが、生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の改善がカギとなる。海外経済の回復や、円安による価格競争力の改善といった外部環境の改善に鑑みると、輸出数量も増加に向かう公算が大きく、生産は増加傾向が続く見通しである。

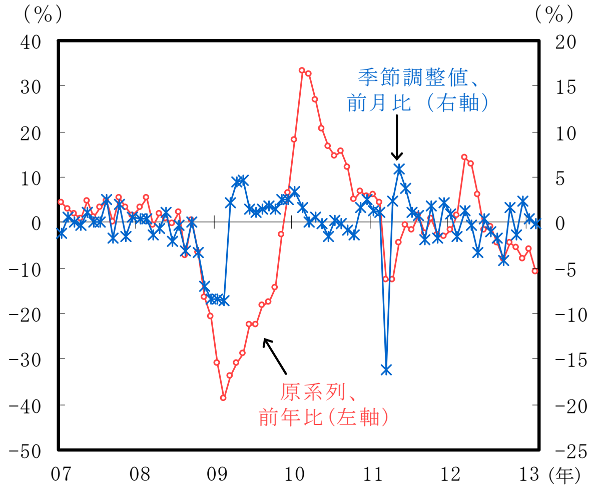
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



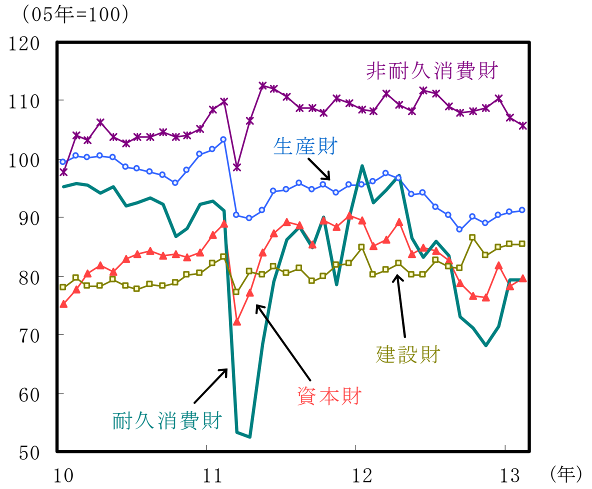
（注1）生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。
（注2）シャドーは景気後退期。
（出所）経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

概　況

鉱工業生産指数の変化率

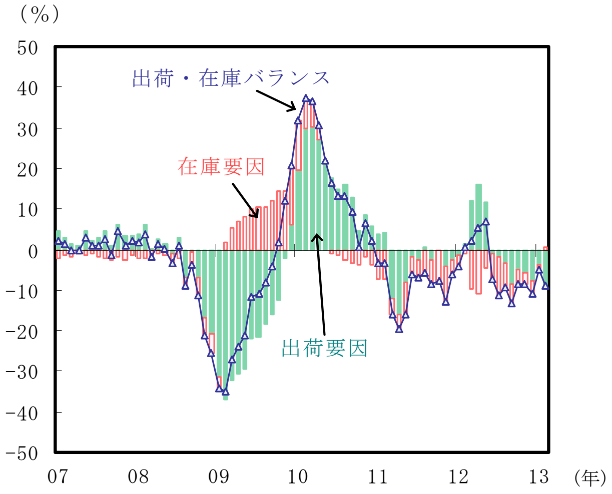


財別の生産指数(季節調整値)

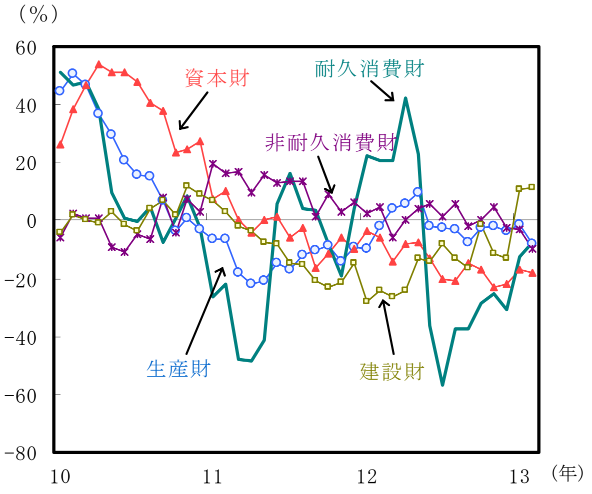


（出所）経済産業省統計より大和総研作成

鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス



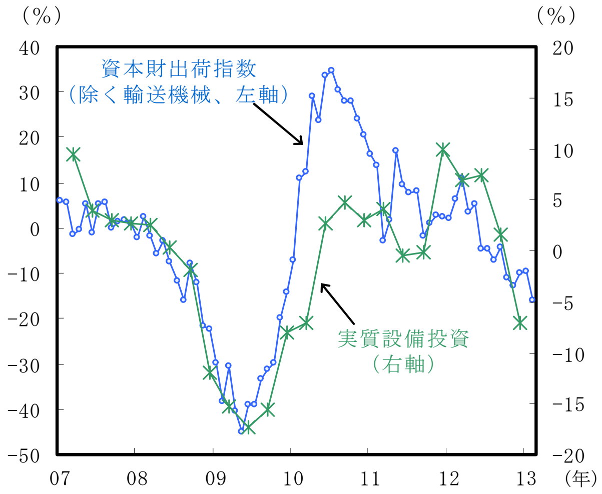
財別の出荷・在庫バランス



（出所）経済産業省統計より大和総研作成

予測修正率と実現率

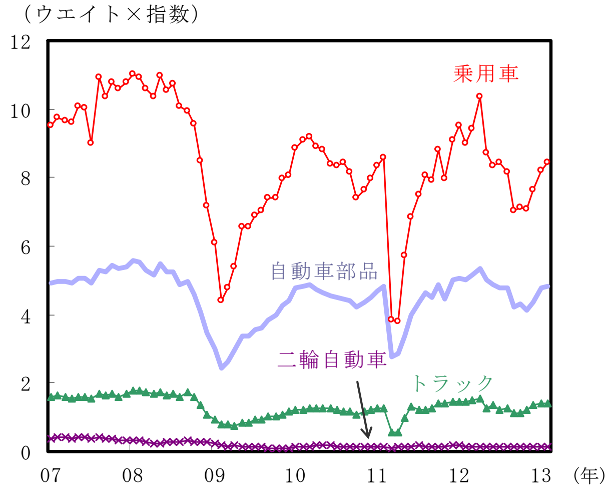
資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)



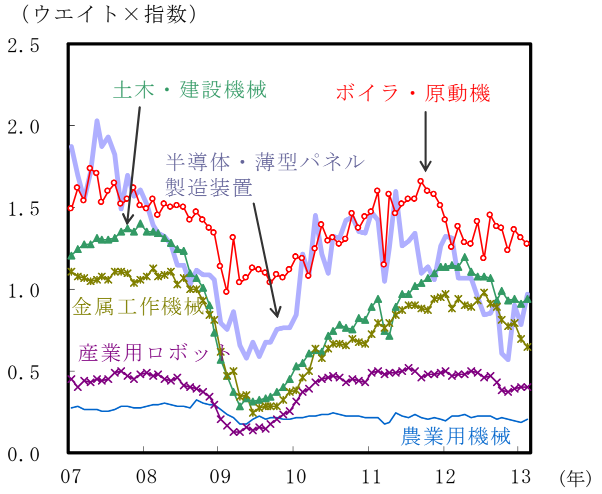
（出所）経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

主要産業の生産動向（季節調整値）

輸送機械

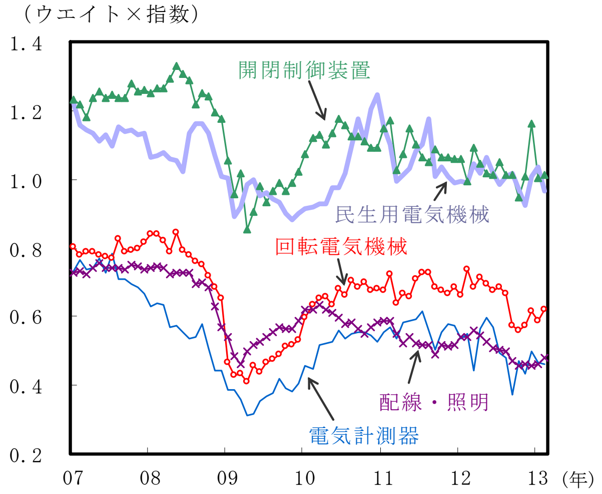


一般機械

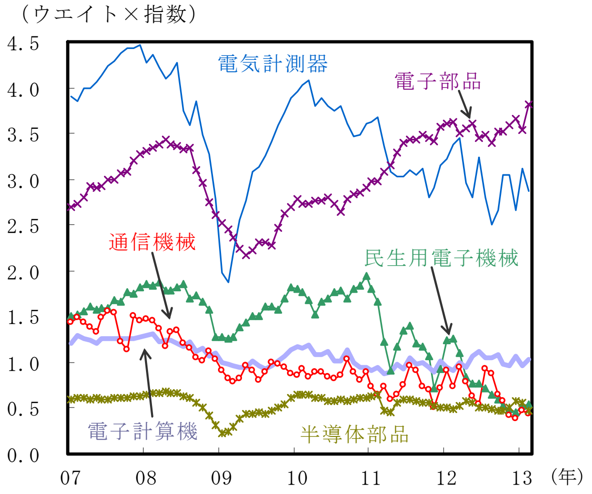


（出所）経済産業省統計より大和総研作成

電気機械

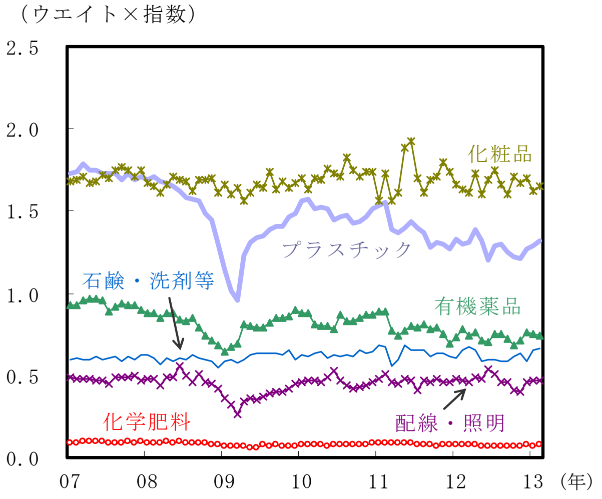


電子部品・デバイス・情報通信

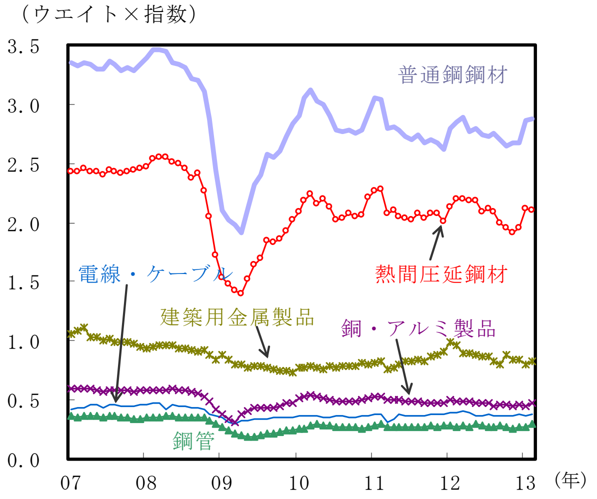


（出所）経済産業省統計より大和総研作成

化学



鉄鋼・非鉄・金属



（出所）経済産業省統計より大和総研作成